

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02453

研究課題名(和文) 三島由紀夫の演劇・映像・アダプテーションに関する総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Yukio Mishima and Theatre, Film and Adaptation

研究代表者

有元 伸子 (ARIMOTO, Nobuko)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：50202768

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、三島由紀夫の文学が、同時代から現在にいたるまで、どのように受容され、演劇や映像のアダプテーション作品として再創作されたかを検討した。上演資料を収拾・整理するとともに、「三島由紀夫とアダプテーション研究会」を立ち上げて、近現代文学・演劇・映画・近世文学・海外(タイ)などの幅広い研究者、実作者(演出家、映画監督)とともに共同研究を行い、三島作品が総合的な文化現象として生成されていく過程を追究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

三島由紀夫は没後50年たった今日でも、忘れ去られることなく高い知名度と読者を保っているが、その要因の一つは、途切れることなく続いてきた三島作品の舞台化・映像化にある。本研究では、三島作品のアダプテーション(翻案)を検討することで、時代や空間、原作者と創作者の個性といった要因が複合しつつ創・受容され、「三島由紀夫」作品が更新されていく過程を解明し、今日のメディア・ミックス状況にも接続することが可能となった。

研究成果の概要(英文)： This study examines how Mishima Yukio's literature has been received and recreated as adaptive works of theater and film from the same era to the present. In addition to collecting and organizing performance materials, we have established the "Mishima Yukio and Adaptation Study Group." The group conducts joint research with a wide range of researchers and actual authors (directors and film directors) in modern and contemporary literature, theater, film, and overseas (Thailand) to pursue the process of Mishima's works being generated as a comprehensive cultural phenomenon.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：三島由紀夫 演劇 映像 アダプテーション

## 1. 研究開始当初の背景

三島由紀夫(1925 - 1970)の没後から50年近くが経過している。没するとともに忘れ去られる作家も多い中、三島文学は、作家自身を直接は知らない世代や日本以外の地域の読者にも受容され続けている。その要因の一つに、三島作品が生前から現在まで途切れることなく舞台化・映像化されてきたことがあるだろう。

しかし、従来の三島由紀夫研究においては、作家の強烈な死によって、ともすれば作家論が中心であった。また、小説に比して立ち遅れていた戯曲研究は近年ようやく盛んになってきたものの、上演された舞台まで視野に入れた研究は少ない。まして、映画やテレビドラマなどの視聴覚表象として翻案・二次創作された三島作品については、本格的な研究はいまだしの状態であった。

研究代表者と研究分担者は、2015年に論集『21世紀の三島由紀夫』(翰林書房)を共編刊行し、国際シンポジウムでもセッションを組み、今後の新たな三島由紀夫研究の方向性を求めて問題提起を行ってきたが、その中で、戯曲や映像などのアダプテーション研究を行う意義と、実作者の視点から劇作を検討する重要性を再認識し、本研究を開始することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、三島由紀夫作品が演劇や映像(映画、テレビドラマ)作品として上演され、あるいはアダプテーションとして創作・受容されてきた様相を探り、1950年代から没後50年近い現在に至る国内外の文化・社会状況との接合を通して、三島由紀夫とその文学が、小説以外の複数のメディアを横断する、いわば総合的文化現象として生成されていく過程を明らかにすることにある。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究の基盤となる資料の収集と整理:

視聴覚資料等を収集・視聴するとともに、演劇博物館等で演劇・映像に関わる貴重な資料を調査し、三島由紀夫作品の上演やアダプテーションの状況を整理した。

### (2) 三島由紀夫作品と受容に関する考察:

アダプテーション、メディア、ジェンダー/セクシュアリティ、ポストコロニアルなどの観点による作品と国内外の受容の検討を行った。(タイでの受容研究を含む)

### (3) 三島に関わる演劇制作者と研究者のネットワーク形成と共同考察への基盤作り:

三島由紀夫と演劇・映像・アダプテーションに関わる研究会を開催し、理論と実作の検討と、研究者のネットワークづくり、実作者との協同考察を進展させた。

## 4. 研究成果

(1) 三島由紀夫と演劇、映画、アダプテーションに関する資料を広範に収集・閲覧して、それを基盤として研究を行った。研究代表者の有元伸子は、主として演劇関係を担当し、三島戯曲や小説の舞台化に関わる資料にあたった。研究分担者の久保田裕子は、タイにおける資料調査を行い、三島作品のアジア表象に関する考察を進めた。同じく研究分担者の武内佳代は、雑誌メディアにおける三島作品や映画化に関する資料調査を進め、大岡昇平等との連関も探った。

(2) 上記(1)での資料収集を踏まえつつ、国内外での三島作品の受容の検討を行った。

有元伸子は、演劇関係のアダプテーションに関する研究を担当した。特に、江戸川乱歩原作で三島が戯曲化したことでポピュラーになった「黒蜥蜴」については、演出関係も含めて幅広く検討を進めた。その成果は、日本演劇学会2017年度研究集会や、日本近代文学会2018年度秋季大会における「《特集》アダプトされた文学の可能性 平準化する人文知の受容現象を問う」における招待講演などで発表された。後者では、2.5次元ミュージカルなどの近年の動向も紹介しつつ、近現代文学研究における演劇を用いたアダプテーションの重要性を提起したもので、「会報」における学会印象記でも高評された。ほかに、日本近代文学会関西支部2018年春季大会における明治維新150年に関する特集における招待発表、「天人五衰」論(『三島由紀夫研究』19)などにおいても、戯曲作品や小説の演劇化といった新しい視点を導入して考察した。

久保田裕子は、タイにおける調査などを踏まえて、「春の雪」「暁の寺」「瀨王のテラス」などを対象として三島由紀夫作品のアジア表象やアジアにおける受容に関する研究を行った。その成果は、タイ国日本研究国際シンポジウム2018(文学3)での招待講演、日本近代文学会国際研究集会(2017年度)などの国際学会での発表のほか、『三島由紀夫研究』19などに論文化された。従来、欧米との関係や受容に目が向けられがちであった三島文学を、アジアでの受容や表象に着目した研究は、きわめて先鋭である。

武内佳代は、『日本古書通信』に断続連載中の論考において、メディア分析とジェンダー批評の方法論をとりながら、「永すぎた春」「お嬢さん」「黒蜥蜴」「肉体の学校」など、女性雑誌メディアに掲載された三島作品の検討を行った。このうち数作品は同時代や後代に映画化されている。また、メディアとジェンダー研究会でも、「複雑な彼」の映画化について口頭発表しており、アダプテーションやメディアミックスの関連から新しい視座を提出した。

(3) 三島に関わる演劇制作者と研究者のネットワーク形成と共同考察への基盤作りを目的として、「三島由紀夫とアダプテーション研究会」を発足させ、期間中に4回の例会を開催した。

各回の発表者、題目等は以下の通りである。

### 三島由紀夫とアダプテーション研究会

第1回(2018年3月17日、広島大学東千田キャンパス)

- ・山中剛史(三島由紀夫文学館)  
「資料が語る三島作品 三島研究における演劇・映画・放送資料の価値」
- ・友田義行(信州大学)「文学と映画の比較断章法」
- ・有元伸子(広島大学)「『黒蜥蜴』にみるアンドロギュノス 乱歩、三島、三島以後」

第2回(2018年9月8日、日本大学文理学部)

〔特集〕演劇

- ・久保田裕子(福岡教育大学)「歴史的言説のアダプテーション 三島由紀夫『癩王のテラス』」
- ・嶋田直哉(明治大学)「輻輳する演劇 宮本亜門演出『金閣寺』をめぐる」
- ・関美能留(三条会演出家)(講演)「三島戯曲を上演する・演出する 近代能楽集を中心に」

第3回(2019年3月9日、日本大学文理学部)

〔特集〕三島由紀夫と映画～「美しい星」の現在

- ・柳瀬善治(広島大学)「映画は「知的概観の世界像」をいかにして表象しうるのか  
- 三島由紀夫『美しい星』と映像によるアダプテーションについて」
- ・田尻芳樹(東京大学)「核、ニヒリズム、映画」
- ・吉田大八(映画監督)(講演)「映画「美しい星」の世界 - 制作の現場から」

第4回(2019年12月7日、広島大学東千田キャンパス)

- ・中元さおり(広島経済大学他)「『憂国』を読む/観る 小説と映画をめぐる表現方法」
- ・木谷真紀子(同志社大学)「『春の雪』の変奏 必然としての舞台」
- ・〔パネル〕「アダプテーションが際立たせたもの」
  - ・畑中千晶(敬愛大学)「西鶴作品のアダプテーション?  
『男色大鑑』のコミカライズ・現代語訳・演劇化をめぐる」
  - ・ナムティップ・メータセート(タイ・チュラロンコーン大学)  
「タイにおける「羅生門」の受容とアダプテーション」
  - ・ディスカッサント: 坂東実子(敬愛大学他)

第1回のキックオフの回では、研究を始めるための基盤として、アダプテーション関連資料の在所や価値、映画と文学研究の方法論、演劇化の各論によって構成した。三島研究者はもとより、映像・演劇やメディア研究者など多様な研究者・院生が参集した密度の濃い会となった。参加者の評価も極めて高く、次回以降の会の運営についてのアイディアも寄せられた。

第2回以降は、研究者による三島文学とアダプテーションに関する研究発表をしっかりと進めるとともに、特集も組んだ。実作者との協同考察を会の発足の目的の一つとしており、第2回には、「演劇」特集として、『近代能楽集』の一挙連続公演など三島作品を多く上演している三条会の演出家・関美能留氏による講演を行った。『近代能楽集』の公演映像を交えながらの演出に関する解説では実作者ならではの戯曲の読解が示され、活発な討議が交わされた。第3回は、2017年に公開された映画「美しい星」の吉田大八監督に講演を依頼した。原作の核を地球温暖化に変更した点についての意図など、講演と質疑において深い話を伺うことができ、「美しい星」の小説と映画に関する読解が格段に進展した。吉田氏の講演録は、『三島由紀夫研究』20に掲載し、今後の研究に供されている。第4回には、西鶴作品のアダプテーション研究を先鋭に進めている古典研究者の畑中千晶氏、タイにおけるアダプテーションによる日本文学受容を研究テーマの一つにしているナムティップ氏によるミニパネル(ディスカッサントに坂東実子氏)を組み、アダプテーション研究の視野を広げた。

前述したように、参加者による研究会の評価は極めて高い。発表者は口頭発表をそれぞれの場で論文化しており、理論と実作の検討による研究の進展、研究者のネットワークづくり、本研究のテーマと関わる異分野や実作者との協同考察といった所期の目標を満たし、研究のプラットフォームとしての機能を十分に果たしていると評価できよう。

今後も研究会を継続開催して、培ってきたネットワークを生かして共同研究を進め、三島由紀夫文学における演劇・映像・アダプテーションによる検討を進展させていくことが目標である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 武内佳代	4. 巻 163
2. 論文標題 大岡昇平『雌花』と『婦人公論』 姦通小説ブームのただなかで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有元伸子	4. 巻 18
2. 論文標題 第1回 三島由紀夫とアダプテーション研究会の開催	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 三島由紀夫研究	6. 最初と最後の頁 139-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 有元伸子	4. 巻 14
2. 論文標題 〔解説〕三島由紀夫『仮面の告白』『豊饒の海』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 表現技術研究	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 久保田裕子	4. 巻 75
2. 論文標題 戦争の中の観光 - 松本清張『像の白い脚』 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 昭和文学研究	6. 最初と最後の頁 70-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内佳代	4. 巻 82(5)
2. 論文標題 三島由紀夫と『婦人倶楽部』 婚約不履行時代の『永すぎた春』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内佳代	4. 巻 82(6)
2. 論文標題 三島由紀夫と『若い女性』 『お嬢さん』の 幸福な結婚	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内佳代	4. 巻 82(9)
2. 論文標題 三島由紀夫と『婦人画報』 「優雅」な女賊黒蜥蜴	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 4-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内佳代	4. 巻 82(11)
2. 論文標題 三島由紀夫と『マドモアゼル』 『肉体の学校』へようこそ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本古書通信	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 武内佳代
2. 発表標題 三島由紀夫『複雑な彼』論への助走 映画化の問題から考える
3. 学会等名 メディアとジェンダー研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田裕子
2. 発表標題 アンコールの彫像 三島由紀夫『癡王のテラス』
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018（文学3）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田裕子
2. 発表標題 歴史的言説のアダプテーション 三島由紀夫『癡王のテラス』
3. 学会等名 第2回三島由紀夫とアダプテーション研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 三島由紀夫がまなざす明治 政治とエロスのあわい
3. 学会等名 日本近代文学会関西支部 2018年春季大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 文学の演劇化とキャラクター生成 変装/変奏する 黒蜥蜴
3. 学会等名 日本近代文学会 2018年度秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 三島由紀夫の最後の小説・『豊饒の海』を読む
3. 学会等名 島根県立大学短期大学部総合文化学科 客員教授講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 三島由紀夫と映画・演劇
3. 学会等名 島根県立大学短期大学部総合文化学科客員教授講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 「黒蜥蜴」とクィア・アダプテーション 乱歩、三島、三島以後
3. 学会等名 日本演劇学会2017年度研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 有元伸子
2. 発表標題 「黒蜥蜴」にみるアンドロギュノス 乱歩、三島、三島以後
3. 学会等名 第1回 三島由紀夫とアダプテーション研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久保田裕子
2. 発表標題 タイからのまなざし / タイへのまなざし - 日本近代文学をめぐる受容状況
3. 学会等名 2017年度日本近代文学会国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保田 裕子  (KUBOTA Yuko)  (30262356)	福岡教育大学・教育学部・教授   (17101)	
研究分担者	武内 佳代  (TAKEUCHI Kayo)  (40334560)	日本大学・文理学部・教授   (32665)	